

高精度で安全な処置

しあわせ広場

■大腸がんの治療

大腸がん（直腸がん・結腸がん）は世界的に罹患率の高位がんで、日本でも増加傾向にあります。切除が可能であればまず手術が検討されますが、遠隔転移があるような進化した大腸がんであっても、手術や抗がん剤治療、放射線治療などを組み合わせた集学的治療により根治、または長期生存が期待できます。

■ロボット支援下手術

大腸がんの手術治療に関しては近年、腹腔鏡下手術やロボット支援下手術といった低侵襲手術が行われるようになりました。低侵襲手術は開腹手術と比べて出血が少なく、創も小さく、術後の痛みも軽減され、入院期間や回復期間が短縮されるといった利点を有しています。

ロボット支援下手術は腹腔鏡下手術の一種に位置づけられますが、操作が難しいといった従来の腹腔鏡下手術の短所を補うものとして、非常に

大腸がん(直腸・結腸)のロボット手術



© 2015 Intuitive Surgical

注目されています。二〇二二（平成二十四）年四月から泌尿器科領域でロボット支援下

手術が保険収載となり、消化器外科領域でも一八年四月に直腸がんにおいて保険収載されたことで急速に普及が進みました。二

二年四月からは結腸がんにおいても保険収載されました。ロボット支援下手術は通常の腹腔鏡下手術とは異なり、術者は患者に直接触らずサージョンコンソール（操作部）からロボット支援下手術のイメージ

ロボット支援下手術のイメージ

ロボット支援下手術の公的医療保険適用状況

診療科	2012年	16	18	20	22
泌尿器科	前立腺	腎臓	膀胱	腎盂	副腎、尿管
消化器外科			食道、胃、直腸	膵臓	肝臓、胆管、結腸
呼吸器外科			肺、縦隔	胸腺	
婦人科			子宮		
心臓血管外科			心臓弁		
耳鼻咽喉科					咽頭・喉頭

らロボットアームを自分の腕のように遠隔操作することで手術を行います。カメラは3Dで自然な立体画像が得られ、手振れ防止機能を搭載。人の手よりも自由に動かすことができる鉗子を使用するため、従来の腹腔鏡下手術では

操作が困難になるような部位の処置が比較的容易に行えます。こうした特長を生かすことで、より高精度で安全な質の高い手術が期待できます。

■大腸がんのロボット手術

大腸がんの中でも直腸は狭く深い骨盤内に存在し、周囲には泌尿器・生殖器や自律神経など重要な臓器が密集、隣接しているため手術難易度が高いとされています。従来の腹腔鏡下手術では鉗子の操作に制限がある、視野の確保が困難であるといった課題がありました。ロボット支援下手術はこうした課題を克服し、精密で再現性の高い処置が可能となります。直腸がんにおけるロボット支援下手術は新しい技術で、さらに実績を積み重ねていく必要がありますが、世界中で積極的に実施されており、安全に実施できるとの報告が多くなされています。

県立病院では二二年度にロボット手術を導入し、二二年一月からはロボット支援下直腸がん手術を開始しました。今後、結腸がんについてもロボット支援下手術を行っていく予定です。（県立病院）

学ぶ つなぐ 火 備える 水 食 健康 撮る 土 カルチャー